

全国市議会旬報

第2114号

ぜんこくしぎかいじゅんぱう

令和2年 3月15日 (2020年)

毎月3回5の日に発行
発行 全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL 03(3262)5234
旬報 TEL 03(3262)2309
発行人 滝本 純生
<http://www.si-gichokai.jp>

指定都市協 厚生年金加入を要望

本会の指定都市協議会（会長＝安達和彦神戸市会議長）は2月28日、要望活動を行った。

安達会長、岩井雅夫次期会長（千葉市）ほか各委員は、与党の要職に対し、2月4日の第21回総会で決定した要望書を手

交の上、地方議会議員の厚生年金への加入について強く要望した。

要望先、要望活動参加市は次の通り。

【要望先】
▽鈴木俊一自民党総務会長
▽豊田俊郎同党政務調査会副会長
▽三浦靖同



鈴木自民党総務会長（中央）



三浦自民党総務副部長（中央）

党総務部会副部長▽橋慶一郎同党総務部会地方議会の課題に関するPTT幹事長▽あかま二郎同党総務部会地方議会の課題に関するPTT事務局長

【参加市】
▽会長＝神戸市
▽副会長＝北九州市
▽監事＝千葉市（次期会長）
▽委員＝さいたま市、川崎市、横浜市

計6市

各市議会 新型コロナ対策 意見書、決議を決定

新型コロナウイルスの流行に対し、感染拡大防止のため、全国各地の市議会が国に対策を求める意見書・決議の決定など対策を行っている。

大阪市会、仙台市議会などは2月議会で、新型コロナウイルス感染症対策の意見書を可決した。新型コロナウイルス対策の意見書・決議を議決した市区数は全国で18市（3月10日現在、本会に報告のあった市区のみ）。

意見書では、患者数の増加や感染経路が不明な罹患者の存在、また新型コロナウイルス感染症が日々の暮らしや各地域のイベント等の開催にも影響を及ぼしていることを指摘した上で、①国内の

感染拡大防止・感染者への徹底した追跡調査②国民が冷静に行動できるような具体的感染予防法の周知徹底、個人情報に配慮しながらの迅速・正確な情報提供③マスク、消毒用アルコール等の安定供給④相談窓口の周知徹底・相談体制や検査実施等の強化充実⑤必要な立法化・国庫負担等の速やかな措置などを国に求めている。

一方、全国知事会は3月5日、新型コロナウイルス緊急対策本部の会合を開催、翌6日に国に緊急提言を出した。新型コロナウイルスエンザ対策特別措置法改正で可能となる「緊急事態宣言」について、その判断基準の明確化などを求めている。

知事会の会合には全国市長会、全国町村会、全国都道府県議会議長会の各代表のほか、総務、厚生労働をはじめ関係各省の事務次官らも出席した。

台風19号

なお復旧途上

本会正副会長 東北4市被災地視察

本会の野尻哲雄会長（大分市）はじめ正副会長は2月12〜14日、昨年10月の「令和元年東日本台風」（台風19号）で大きな被害に見舞われた福島県いわき市、郡山市と宮城県大崎市、角田市の4市を視察した。被災から4か月経ってもなお、災害の爪痕は残り、地元関係者の顔つきは厳しい。復旧途上にある被災地の実情を見た同会長は「地球温暖化の影響もあり、台風が勢力そのまま東北まで来るような時代になっている。被災地の声を国への要望活動に生かしていく」と約束した。

副会長で参加したのは 議長も合流した。

いわき市

菅波健いわき市議長、堀川秀樹福井市議長、渡辺進二郎調布市議長、峯満寿人河内長野市議長、清水宣郎松山市議長の5人。角田市視察には本会東北部会長の岩谷政良秋田市

の総雨量は最高で448

・5mmに達し、

二級河川の夏井川の堤防7カ所が決壊、好間川、鮫川でもそれぞれ1カ所破堤した。濁流が市街地に一気に流れ込



夏井川決壊箇所（いわき市）

被災当時の状況を説明、そのさなか、愛犬を連れて地元の男性が菅波副会長に歩み寄り、「いまだに生活再建ができていない」と訴える一幕も。「家に戻りたくても戻れない、家を直したくても直せない

み、全壊125戸、大規模半壊850戸、半壊3220戸を数え、9人が死亡した。浸水エリアは夏井川系で約1210ha、市南西部の鮫川水系で約

65haに及んだ。同市を襲った過去の災害の歴史の中では伊勢湾台風（昭和34年9月）時の死者6人、負傷者24人を上回る被害となった。一行は堤防脇でバスを降り、夏井川の堤防を歩いて実際の決壊箇所には修復中の堤防には幅約25mに渡って白い土嚢が何十個と積まれ、反対側にはブルーシートで覆われている所も。周囲には改修を終えて生活再建が進んだ住居がある一方、空き家状態の家も目立つ。修復が進む堤防上で市当局者がパネルを使って



平浄水場で被災説明する菅波副会長（いわき市）

市民がいる。行政ができることには限界がある中でいかにこうした被災者に寄り添っていくかが問われる」と菅波副会長は神妙だ。一行はこの後、市全体の3分の1の水供給を担う夏井川沿いにある平浄水場の視察に回った。浸水被害で基幹電気設備や操作盤などが軒並み水没して運転がストップ。市内約4万5400戸が断水し、約10万人に影響が出た。電気室、ポンプ室が入る管理棟は床上62cmまで水が入り込んだ。

取水した川の水を貯め、薬品投入で不純物を分離する沈殿池（地下）は天井にまで水で浸かった。市は排水や設備入れ替え、モーターの洗浄・乾燥などを続け、受電を2系統から1系統にまとめるなどの

今後の浸水防止策のため、市水道局は大型土嚢を2段積みにして浄水場周囲（400m）に張り巡らせるなどの浸水防止対策を進めており、3月末までに作業を終わらせ

郡山市

る計画。一行はその大型土嚢が積まれている様子

を見て初日の視察を終えた。

13日午前バスで郡山市に移動。大規模な浸水被害に見舞われた郡山中央工業団地(280社、従業員約8000人)などを視察した。

の説明を受けながら谷田川の堤防決壊箇所へ。数多くの白いブロックで約30mに渡って応急補修が施されており、別の場所ではブルーシートで覆られている損壊部分も目につく。

同市では阿武隈川流域で24時間に200mmの降雨を記録、同川の堤防決壊こそなかったものの越水、溢水があり、谷田川、藤田川、逢瀬川、笹原川の阿武隈川水系4河川も氾濫した。人的被害は死者6人、負傷1人だった。一行はまず同市当局者

この堤防から西側一帯に郡山市の産業の中核を担う中央工業団地が広がる。団地のさらに向こう側を流れるのが阿武隈川。中央工業団地は2つの河川に挟まれた一帯に位置している。台風通過当日は谷田川堤防の2カ所が決壊、そ



谷田川決壊箇所(郡山市)

が402棟。浸水が2m

を越えた工場もあり、被害総額は集計の済んだ企業だけで401億円に上る。大企業を中心に被害届け出が済んでいないところもあり、被害総額はさらに膨らむ見通しだ。浸水被害を被った企業の中には日立製作所、パナソニックといった同団



谷田川堤防で被災説明する七海郡山市議長(右・同市提供写真)

こから一気に濁流が流入し、敷地面積189haの工業団地のほぼ全域が浸水した。180cm以上の浸水被害を受けた建物

その日立が昨年末、事業のほとんどを神奈川県秦野市、愛知県稲沢市へ移転することを決定、市当局に大きなショックを与えた。「国内屈指の企業も多

大崎市



あいさつする佐藤大崎市議長(同市三本木庁舎)

く立地しているため撤退等により雇用が脅かされるだけでなく、サプライチェーンが寸断されるなど全国的にも深刻な影響を与えている」。福島県市議会議長会長も務める七海喜久雄郡山市議長は苦悩を隠さない。パナソニックは過去の浸水被害を教訓に、高さ

最大2mの防水壁を周囲の大部分に設けていたが、今回押し寄せた濁流はそれを乗り越えた。同社はさらに防水壁を高くすることや、敷地の周囲すべてに渡すことを検討しているという。被災企業は設備入れ替えなど膨大な労力を費やして徐々に工場再開にこ

ぎつけた。しかし、工業団地で浸水被害が再び起きた事実重い。福島県市議会議長会長は災害復旧で「改良復旧工法の積極推進」を、商工業支援で「金融支援をはじめとする必要な経営支援策」を国・県に緊急要望した。

13日午後新幹線で古川駅に移動、宮城県内で代表的な米どころ大崎市の被災状況を視察した。4年前の関東・東北豪雨で破壊した鳴瀬川水系の渋井川や名蓋川の堤防が再び決壊、さらに一級河川の吉田川の堤防決壊も

あり、住宅被害700棟を出した。市全体の推定浸水面積は1万1150ha、作物被害約1568haに及んだ。同駅からバスで大崎市役所三本木庁舎へ県道158号線を南進。道中、車窓では田畑の土色が一面に広がる。一年で一番寒いはずのこの時期。地吹雪が起ることもあるという県道だが

今年白銀の世界とは無縁。「暖冬なので大崎市にあるラムサール条約湿地に飛来したマガンが一足先に帰ってしまった」

くが浸水被害を受けた。浸水は最大10日間続き、多くの住民が1か月半に及ぶ避難所生活を余儀なくされた。

吉田川は昔から「暴れ川」と称される。昭和22年のカスリーン台風、23年のアイオン台風、

25年のキティ台風、最近では61年の8・5豪雨で甚大な水害を生んだ。

「復旧事業に当たって、直して終わりの復旧ではなく、改良復旧にすべきだ。国にこう強く求めてきている」(同議長)という要望活動の背景にあるのは、こうした同じような場所と同じような被害を受けてきた同市の災害の歴史があるためだ。

今回の水害では稲わら処理も課題となった。大崎市はササニシキやひとめぼれなどで知られる有名産地。多くの農家で稲刈りを終え、大量の稲わ



浸水した鹿島台地域 (宮城県提供写真)

らが田んぼに積まれていた。稲わらは濁流に流され一帯に散乱、その量は約1万2000tにのぼる。

同市ではその処理に奔

角 田 市

最終日14日は宮城県南部の有数の米どころ角田市を視察。同市では大量の降雨により、阿武隈川が氾濫寸前に。複数の支流で越水や堤防決壊が起き、市街地や農地、道路が広範囲に浸水、そのエリアは全市の約4割に及

走し、このうち4100tは大船渡市のセメント工場に資材用途で持ち込み、4000tは東京の清掃工場で焼却処理、残り3780tはたい肥活用で処理を進めることで話がまとまった。

東京都で処理する4000tのうち1000tは

一部事務組合「ふじみ衛生組合」(調布市・三鷹市が設立)が請け負うことも決まった。大崎市議

会が発災後、緊急要望した「稲わらの広域的処理がこのような形で実を結んでいる。

ぶ。死者1人も出し、渡邊誠同市議長は「角田市の歴史の中で一番大きな災害となった。市で防災計画を整えているが、議会でも『今までのようなわけにはいかない』との意見も出ている」と振り返る。

10月11日から13日までの総雨量は404mm。り



あいさつする渡邊角田市議長(右)(市民センター)

災証明書の発行申請は東日本大震災時に比べても300件多い1518件に達した。

一行はバスで市内を視察。本会東北部会長の岩谷政良秋田市議長が一行に合流し、一緒に被災地を見て回った。

「3月に交付される特別交付税には期待している。それがなければ財政がもたない」「水害では市役所に災害対策本部を設置してずっと張り付いていたが、孤立してしまふと全体の状況が見えないうですぬ。情報を知り、対応していくということがなかなかできなかった

のが反省点だ」。車中での大友喜助市長の説明にも悲壮感がにじむ。

浸水した田んぼは被災4か月経過後もまるでグランドのよう。土砂が堆積し、所により重機が入っているのが見える。ブルーシートも各所に顔をのぞかせる。

「農地の災害がこれだけ大規模だと今年の作付けは場所によっては間に合わない」。市担当者が漏らす感想も重い。

一行はその後、市街地北部にある国施設「江尻排水機場」を視察した。



土砂で埋まった田んぼ (角田市)

阿武隈川水系の雑魚橋川、尾袋川が増水した際、阿武隈川に排水するのが主な役目。排水ポンプ4台の処理能力は毎秒計62t。その排水能力は東北随一を誇り、台風19号被災では10月12日午後1時過ぎから16日午前6時過ぎまでの3日間半、フル排水が続いた。

この間、大量の稲わらが流入し、設備稼働のためにその除去に追われた。除塵機をフル稼働させた間に合わず、重機も使って除去を進めた。負荷がかかったのか、除塵機の滑車が壊れるトラブルにも見舞われた。

昭和62年から平成4年にかけて4台ポンプが整備されたこの排水機場は老朽化からポンプが緊急停止するトラブルにも数回遭っており、令和元年度から8年計

画での改修に着手したばかり。台風19号被災で改めてその重要性が認識された。地元では豪雨時の

ことを考え、さらなる排水機能の強化を求める声も上がっている。

ている。

大崎市議会が設けたのは「災害対策連絡会」。

同市は平成25年2月に「大規模災害に際し、市

本部が設置された場合は直ちに議会内に連絡会を設置することができる」との規定を設けており、

それに基つき、発災後、直ちに設置、4つの常任委員会（総務・民生・産業・建設）単位で調査活動した。

一方、いわき市は「議会として災害対策本部を立ち上げようかという話

約70mにわたり決壊した。浸水した長野市の被害は甚大で、破堤箇所は鋼矢板で水をせき止める鋼矢板仮締切堤防が設けられていた。

野尻会長は視察で「全国市議会議長会として被災地の復旧・復興、生活支援などについて国に要望活動しているが、それぞれの課題などの勉強を

もあったが、既に各議員が現場に入っていた。各議員が現場で集めた情報を行政の災害対策本部に伝えた方がよいと判断した」（菅波健議長）。

角田市は「各議員は統一行動を取らず、それぞれが地元で情報を集めたり、各行政区長の活動をサポートしたりした。今回の被災を教訓に、災害時の議会の対応の指針やマニュアルについて協議を始めたところだ」（渡邊誠議長）としている。

千曲川上流で24時間雨量が300mmを超え、長野市でも観測史上最大の130mm超を記録。市内でも長沼、豊野の両地区は、特に被害が大きかった。

破堤した長沼地区に設置した被災住民の交流の場である長沼地域交流ハウス（トレーラーハウス）で、被災状況の説明を受けた。

市全域では、6地区で計1541haが浸水し、約4000世帯が被災した。千曲川は長沼地区の破堤のほか、市南部の篠ノ井地区など計4カ所でも越水した。「千曲川は千曲曲がる川と書き、曲がりが多い。川の水当たり

と云って、当たるところがどうしても弱く、越水しやすい」（鎌田富夫危機管理防災監）

長沼地区は深いくろで2m以上冠水した。破堤箇所に近い交流ハウス付近は、住家や神社が流されるなど、「東日本大震災の津波の跡と同じ光景」（同）だったという。

人的被害は、死亡2人、重軽傷94人。住家被害は全壊が長沼地区で502戸、豊野地区で370戸、越水した篠ノ井地区で一部損壊が1078戸など計4050戸に及んだ。農作物関係の被害額は2

それぞれ 4市 対応

今回の台風19号被災で東北4市議会の対応は分かれた。福島

県郡山市議会は対策協議、宮城県大崎市議会は対策連絡会をそれぞれ設置、一方、

いわき市、角田市は各議員の支援活動に対応を任せた。

千曲川70メートル破堤

長野・須坂市被災地視察

野尻哲雄会長（大分市）、渡辺進二郎副会長（調布市）、峯満寿人副会長（河内長野市）、佐藤正洋副会長（長崎市）の正副会長4人は2月19日、長野、須坂両市の台風・豪雨被災地を視察した。

昨年10月12日からの東日本台風（台風19号）による豪雨で千曲川（信濃川の長野県域の呼称）が氾濫。同13日、長野市長沼地区（穂保）で堤防が

約70mにわたり決壊した。浸水した長野市の被害は甚大で、破堤箇所は鋼矢板で水をせき止める鋼矢板仮締切堤防が設けられていた。

野尻会長は視察で「全国市議会議長会として被災地の復旧・復興、生活支援などについて国に要望活動しているが、それぞれの課題などの勉強を

もあったが、既に各議員が現場に入っていた。各議員が現場で集めた情報を行政の災害対策本部に伝えた方がよいと判断した」（菅波健議長）。

長野市

千曲川上流で24時間雨量が300mmを超え、長野市でも観測史上最大の130mm超を記録。市内でも長沼、豊野の両地区は、特に被害が大きかった。

破堤した長沼地区に設置した被災住民の交流の場である長沼地域交流ハウス（トレーラーハウス）で、被災状況の説明を受けた。

市全域では、6地区で計1541haが浸水し、約4000世帯が被災した。千曲川は長沼地区の破堤のほか、市南部の篠ノ井地区など計4カ所でも越水した。「千曲川は千曲曲がる川と書き、曲がりが多い。川の水当たり

と云って、当たるところがどうしても弱く、越水しやすい」（鎌田富夫危機管理防災監）



長野市から説明を聞く正副会長

計1541haが浸水し、約4000世帯が被災した。千曲川は長沼地区の破堤のほか、市南部の篠ノ井地区など計4カ所でも越水した。「千曲川は千曲曲がる川と書き、曲がりが多い。川の水当たり

と云って、当たるところがどうしても弱く、越水しやすい」（鎌田富夫危機管理防災監）

長沼地区は深いくろで2m以上冠水した。破堤箇所に近い交流ハウス付近は、住家や神社が流されるなど、「東日本大震災の津波の跡と同じ光景」（同）だったという。

人的被害は、死亡2人、重軽傷94人。住家被害は全壊が長沼地区で502戸、豊野地区で370戸、越水した篠ノ井地区で一部損壊が1078戸など計4050戸に及んだ。農作物関係の被害額は2

もあったが、既に各議員が現場に入っていた。各議員が現場で集めた情報を行政の災害対策本部に伝えた方がよいと判断した」（菅波健議長）。

角田市は「各議員は統一行動を取らず、それぞれが地元で情報を集めたり、各行政区長の活動をサポートしたりした。今回の被災を教訓に、災害時の議会の対応の指針やマニュアルについて協議を始めたところだ」（渡邊誠議長）としている。

一方、いわき市は「議会として災害対策本部を立ち上げようかという話

約70mにわたり決壊した。浸水した長野市の被害は甚大で、破堤箇所は鋼矢板で水をせき止める鋼矢板仮締切堤防が設けられていた。

野尻会長は視察で「全国市議会議長会として被災地の復旧・復興、生活支援などについて国に要望活動しているが、それぞれの課題などの勉強を

もあったが、既に各議員が現場に入っていた。各議員が現場で集めた情報を行政の災害対策本部に伝えた方がよいと判断した」（菅波健議長）。



千曲川破堤箇所
説明を受ける野尻会長

市危機管理防
災課では、被災
者支援制度を一
覧にしたガイド
ブックを900

26億8000万円。りんご、もも、長芋などの農作物のほか、りんごを消毒するスピードスプレーなど高額な機械も被害を受けた。りんご畑に多いところで約50cmの土砂が堆積。これが乾くと固くなり、りんごの木が枯れてしまったため、土砂を取り除くボランティアが全国から集まった。市の公共土木施設の被害額は道路と河川で11億8600万円。排水機場は水没による電気系統の故障で7施設が稼働できなくなった。

民、ボランティアが公園などに持ち込み、夜間に自衛隊が地区外に搬出。10月19日から11月17日まで3・5t車など延べ2647台で運んだ。市民、ボランティア、行政、自衛隊が連携し、被災者のために一丸となった「One Nagano」で取り組んだ。災害ボランティアは延べ約6万3000人、農業ボランティアは同6800人が活動した。住宅支援は、市営住宅など182戸、借り上げ住宅への入居が600件弱、トレーラーハウスなど応急仮設住宅を115戸提供している。



豊野支所で説明を聞く正副会長

町役場)で豊野地区の被災状況の説明を受けた。長野市域の中で最も標高が低く、過去何度も大きな水害に見舞われている。水没した支所1階の水位は1・5mに達するなど、一帯は軒並み1階が浸水した。

0部作成し、支援制度の周知を行っている。市は今年度中に復興計画を作成する。被災当時浸水した北陸新幹線車両基地を車中から見学した後、1階が浸水した豊野支所(旧豊野



千曲川破堤箇所
に設けられた
鋼矢板仮締切堤防

「千曲川・信濃川は全長367kmあり、今回の災害ではいろいろところで越水は確認されているが、千曲川の本堤防が決壊するとは誰も思っていなかった。私が生きてきた60年間経験がない」(村松昭支所長)という。

須坂市



小泉 栄正
長野市議会議員

須坂市役所で被災状況などの説明を受けた。24時間雨量で過去最高を記録する豪雨で、千曲川の越水、内水氾濫や山間部の土砂崩落などにより大きな被害が出た。広域に浸水し、人的被害は軽傷7人、住家被害は354世帯。農業被害など市の被害額は1月末現在約25億円。避難者は指定避難所など25カ所に2000人近くに及んだ。

市議会は10月13日早朝、正副議長らが浸水地区など被災状況を確認。15日

に全員協議会を開催し、市から被害概要、対応状況の説明を受けた。市は千曲川治水対策では堤防事業促進、本河川の中州の土砂、立木の除去などを求めている。

【中島議長の話】



中島 義浩
須坂市議会議員

身近に接してきた千曲川がこのような状態になることに驚きを隠せない。観光面では昨年の紅葉シーズンの予約キャンセル、雪不足による入り込みの減少や、新型コロナウィルスの発生で外国人旅行客が大幅に落ち込むなど大変厳しい状況が続いている。被災された皆様は元通りの生活に戻られるには引き続き国、県などの支援が不可欠。